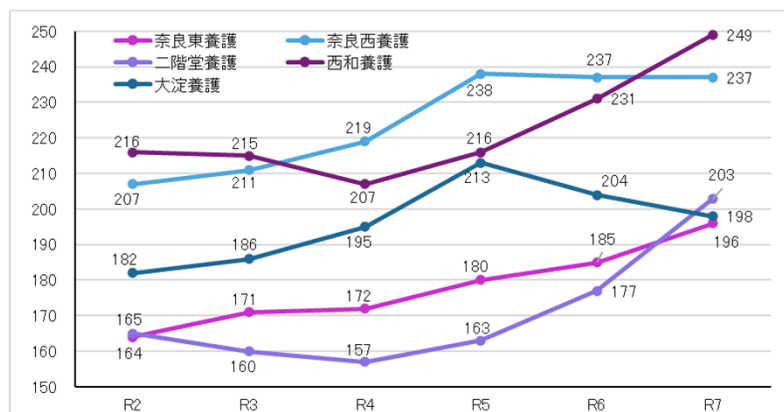


1. 基本構想の背景・目的

県内特別支援学校の現状・課題

- ・施設の老朽化・狭隘化
- ・知的障害特別支援学校の在籍児童生徒数が増加
⇒今後も増加の見込み



北部地域の課題

- 奈良養護学校（肢体不自由・病弱）は竣工から44年が経過し、開校当初の施設環境では、児童生徒の障害の重度・重複化への対応が困難な状況となっている
- 奈良西養護学校及び奈良東養護学校（知的障害）では在籍児童生徒数の増加による施設の狭隘化がみられる

	類型	R7 在籍数	築年数
奈良養護学校	肢体不自由	99 名	44 年(S56 年築)
	病弱（訪問）	25 名	—
奈良東養護学校	知的障害	196 名	54 年(S46 年築)
奈良西養護学校	知的障害	237 名	41 年(S59 年築)

対応策

- 奈良養護学校を知肢病併置校として移転
 - ・多様な障害に対応できる施設環境の整備
 - ・知肢病併置校とすることで、北部地域の在籍児童数（知的障害）の適正化
- 一定の敷地面積を有する未利用の県有地の中から奈良市平松の旧奈良県総合医療センター跡地へ移転することを決定

基本構想の目的

（仮称）奈良県立特別支援学校の移転整備の基本計画を策定するに当たり、文部科学省策定の「特別支援学校施設整備指針」を踏まえつつ、肢体不自由教育部門・病弱教育部門と知的障害教育部門を併設した新しい一体型の学校の目指す方向性や適切な規模などの整備の方向性を検討し、まとめるものである。

2. 目指す学校の方角性

【目指す学校像】

- ① 共生社会の実現を目指す学校
- ② 一人一人の教育的ニーズに対応し、個々の能力や可能性を最大限に引き出すことができる学校
- ③ 卒業後の自立と社会参加に向けて、一人一人の自己実現を目指す学校
- ④ 健康的かつ安全で豊かに学ぶことができる学校
- ⑤ 地域に開かれ、地域とともにある学校
- ⑥ センター的な役割を果たし、地域の特別支援教育の拠点となる学校

【目指す学校像を実現するための方策】

- ・それぞれの学校が行ってきた高い専門性に基づいた教育を継承しつつ、多様な実態の重複障害の児童生徒に対する教育内容の充実
- ・児童生徒の特性を踏まえた環境整備とともに、部門を超えた交流機会の工夫
- ・ICT教育の充実
- ・職業教育の充実
- ・地域の資源を活用した教育活動の実施と地域の交流を推進
- ・防災性や防犯性など安全性を備えた安心感のある環境

3. 学校概要

- ・障害種別：肢体不自由教育・病弱教育及び知的障害教育
- ・学 部：小学部、中学部、高等部
- ・想定児童数：260名（予定）

肢体不自由・病弱	140名
知的障害	120名

4. 想定規模

※現時点での想定であり、基本計画、基本設計の時点で検討・精査

建物名	構造	階数	延床面積
(仮) 奈良県立 特別支援学校	未定	2階想定	約17,600㎡程度

5. 施設整備の基本方針

- ① 安全でゆとりのある施設整備
- ② 特別支援教育を推進するための施設整備
- ③ 児童生徒の主体的な活動を支援する施設整備
- ④ 耐久性、維持管理、更新性に配慮した施設整備
- ⑤ 地域と連携した共生社会の実現に資する施設整備
- ⑥ 持続可能な社会の実現に寄与する施設整備

6. 施設機能

- ① 多様な障害に対応した特別支援教育を実施する機能
- ② 将来の自立・社会参加を学ぶ機能
- ③ 特別支援教育のセンター的機能
- ④ 地域と連携する機能
- ⑤ 管理機能